

林業って「命がけ」の仕事？！

新年度を迎えるにあたり、今一度確認しておかないといけないことが沢山ある中で、林業の仕事をもう一度見つめ直す必要があると思います。

林業は体力勝負、怪我がつきもの、命がけの仕事、です。何だかあまり良い印象を受けません。確かに、毎日山を歩くので体力が必要なのは間違いないです。でも、怪我がつきもの、命がけかといわれると、果たしてそうなのでしょうか。

事故は、「危ないことを危ないと感じない時に起こる」と思います。

車の運転で例えると、見通しの悪い交差点では必ず一度止まってから、左右確認して発進します。それは、「車が来るかもしれない」と感じたら、「ぶつかるかもしれない」と想像します。それをもし、何のお構いもなしに、そのままのスピードで突っ切れれば大事故になる可能性があります。林業も同じで、木を伐るときに何も気にせずただ伐れば、木の下敷きになったり、挟まれたり、チェーンソーで自分を傷つける事故になりかねません。なので、危ないと感じていれば、伐る前にブレーキを踏み、そして一呼吸置き、安全かを確かめます。

林業の仕事は常に「～かもしれない」の連続です。“怪我は教訓”として語られるべきです。「林業は危険な仕事」ですが、それをしっかりと分かっているならば、命をかける必要はありません。縁あって林業に就こうと考える方が、「林業って爽やかで、魅力のある職業だね」と言ってもらえるように、きこりのカッコいいイメージを作っていきたいものです。

木 に 宿 る 命

木には人の想いが宿ると聞いたことがあり、調べてみたところ、人の目に触れている木のほとんどが、人の手によって植えられた木だからだと言われているそうです。

長い間、それも世代を超えて人のそばに寄り添い、家族の生活を見守ってきた木は、なおのことその想いをしっかりと受け取っている。それはもう、人と植物という、種族の垣根を越えた生き物同士の魂の触れ合いであるように思います。

日本には古来より“万物霊魂”の考えがあり、草や木、石や水、そして空まで、すべてのものに命があって、人はそれと同じ自然の中に生を受け存在している。人はこの世界の中で、何も特別ではない。人はそもそも土から出来ていて、土に還っていく。人より長生きする木を伐らせてもらうことで、人の繋がり、仕事の歓び、人生の奥深さを沢山味わわせていただける感動業なんだと、誇りに思います。

依田林業新聞

発行所

(有) 依田林業
塩山事務所
総務部

君の心の庭に、忍耐の木を植えよ
その根は苦くとも、その実は甘い

今月の一言

労働災害発生の内的要因⇒教育・指導

知らなかった

- ・ 機械の構造、機能など
- ・ 災害発生の原因と正しい作業方法

できなかつた

- ・ 作業方法、操作方法、点検などの習熟
- ・ 技能、技術力の向上

やらなかつた

- ・ 危険の種類や大きさへの理解
- ・ 安全作業への意欲

ついウツカリ = ヒューマンエラー

安全対策